

第138回交流フロア運営会議（議事概要）

1 日時・場所

日時：2023年10月4日（水）18：30～20：00

場所：伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流フロア

2 参加者数 17名

3 会議内容

<新規提案>

（1）超簡単人をひきつける言葉の法則を学ぶ講演会

【概要】

- ・前回のイベントの際に、音韻や子音のイメージなど、ことばの説明に興味を持たれた方が多かったため、ことばの話に特化したイベントを企画した。
- ・イベントの目的は、人気キャラクターやヒット商品の名前に共通する「ことばの法則」を知ること、人を惹きつける魅力的な文章が書けるようになること。
- ・配布資料とホワイトボードへの板書を用いた講義形式。

【意見】

- ・鼻濁音の解説もしてみてもどうか。
 - ・講義だけではなく、実際に参加者にフレーズを作ってもらうなどワークを入れてはどうか。
 - ・対象は「どなたでも」としているが、特にどんな人におすすめか。
- ことばに興味を持っている人や、文章を書く機会のある人であれば誰にでもおすすめできる。
- ・チラシに魅力的なことばの法則を用いた例文を掲載してみてもどうか。

（2）ココロとカラダを整える椅子ヨガ

【概要】

- ・体が柔らかくないとできないと誤解されがちなヨガを身近に感じてもらいたくて企画した。
- ・特に体が硬い人や高齢者を対象に、椅子を使って日常で実践できるヨガを教える。
- ・筋力低下を防ぐための運動や呼吸法も取り入れる。

【意見】

- ・椅子はことば蔵の備品の椅子で大丈夫か。
- 背もたれと座高がある程度あれば実践できる。
- ・家族を連れていきたいが、イベントの開催はどれくらいの時間帯になるのか。

→図書館の開館が9時半からなので、それ以降になるのは確実。また、若い人や健康な人にとっては、運動量が物足りないイベントになるかもしれない。参加者の年齢を限定するつもりはないが、高齢者でも参加できる内容にしたいと考えている。チラシへの書き方を工夫する必要がある。

(3) 減薬のススメ～ポリファーマシーについて～

【概要】

- ・ポリファーマシー（薬を飲みすぎることによる有害な作用）について知っていただきたくて企画した。
- ・講義形式でポリファーマシーやお薬のこと、服用者が注意すべきことなどをお話する。

【意見】

- ・お医者さんには、減薬したいという意味は伝えたほうがいいのか。
- 減薬についてはまずお医者さんに相談することが大事。対等なコミュニケーションを心がけるのがよい。
- ・お医者さんとのコミュニケーションについて、ぜひイベントで解説してほしい。
 - ・薬の飲み合わせの良し悪しはあるのか。
- ある。薬剤師はお薬手帳を見て判断している。
- ・イベント名にポリファーマシーがついていてもピンとこない。実際に社会で問題になっている身近な話題などを取り入れてみてはどうか。

(4) 伊丹の民話を聞いて、ものづくり体験をしよう

【概要】

- ・夏休みに開催させていただいたイベントと同じようなものを冬休みに企画したい。
- ・第一部は伊丹文化財ボランティアの会が作成したデジタル紙芝居の上映。今回の演目は「二蠟丸」（荒木村重の少年時代のお話）と「野間の一本松のいたずら狐」。紙芝居の前に荒木村重の解説もしたい。
- ・第二部はものづくり体験を開催。何を作るかは今後の会議で決めていく予定。
- ・前回開催時には第一部と第二部の間に時間を空けていたが、今回は参加者が逃げないように連続で開催したい。

【意見】

- ・荒木村重について、あまりピンと来ない。
- 紙芝居であるため、有名な肖像などを紹介しながら解説できると思う。
- ・デジタル紙芝居とはどういったものか。
- アナログの紙芝居をスキャンしたものをモニターやスクリーンに映して楽しむ。昔はアナログの紙芝居を使っていたが、会員の高齢化に伴いデジタル紙芝居を使っている。

(5) キッズサバイバー講座(地震編)

【概要】

- ・キッズサバイバー講座の第 14 回目。参加者が少なくなってきたので、一部内容をリニューアルし開催する。
- ・これまでは親子で楽しめる内容にしていたが、子どもだけでも楽しめるようにする。
- ・夏休み子どもワークショップのイベントで好評だったペットボトルランタンづくりをしてから講座に入る。講座ではテントの中に入って、ジャッキアップ救助、応急手当、毛布搬送など、災害時の体験をしてもらう。

【意見】

- ・テントの大きさはどれくらいか。
→子どもが 10 人座れるくらいの大きさ。30 分程度の災害体験をテントの中でしてもらう。
- ・テントは災害体験の意味合いで使用するのか。
→もちろん災害体験をよりリアルにする目的もあるが、工作したペットボトルランタンの見栄えをよくすることも狙っている。

(6) わらべうたあそびの会～お手玉あそび

【概要】

- ・わらべうたあそびを紹介するイベント。これまでの開催では、接触が制限されていてお手玉が使用できなかったため、今回はお手玉に特化して開催する。その他、季節のわらべうたも紹介する。
- ・小さな子どもだけでなく、高齢者の参加も期待している。高齢者が知っているわらべうたで交流ができれば楽しいイベントになると思う。
- ・開催が冬になるので、交流フロアの底冷えが心配。フロアマットを敷くと靴を脱ぐ必要があるため、対策を考えたい。

【意見】

- ・フロアマットは自身で持ってこられるのか。
→ことば蔵の備品にあるものを使う予定。
- ・わらべうたは何かしらの音響機器で流すのか。
→企画者自身で唄う。大きな音は出さないで、開催できると思う。
- ・関東と関西でわらべうたに違い和あるのか。
→ある。メジャーな曲に違いがあったり、同じテーマでも歌い方や手振りが違ったりする。
- ・いろんな地域の出身者やいろんな世代の参加者が集まれば、地域間交流、世代間交流としても充実したものになると思う。

(7) 90 分筆談カフェ

【概要】

- ・ろうあ者に対する理解を深めるため、90 分間筆談のみでコミュニケーションをとるイベントを開催

したい。

- ・対象は高校生以上の健康な方で考えている。どんな人でもある日突然障がい者になる可能性がある。普段身体的な障がいについて想像したこともない人が学ぶ場になってほしい。
- ・イベントへの参加を通して、何かしら障がい者に対する気づきを得ることができればイベントとしては成功と考える。

【意見】

- ・対象は健康な方ということであったが、ろうあ者も交じって筆談をすれば、様々なお話しが聞けて充実するのではないか。
- ・90分間筆談をするというだけでは、ざっくりしすぎていて具体的にどのようなことをするイベントなのかわかりにくい。筆談のテーマや目的を決めたほうが人を集められるかもしれない。

(8) 見えるのに見えない鳥たち

【概要】

- ・伊丹市内で見かけた鳥についておしゃべりをするイベントを開催したい。
- ・個人で撮影した鳥の写真や動画を使い、講義形式で鳥の紹介をする。ただし、一方的に話すのではなく、参加者とおしゃべりする感覚で交流ができればと考えている。
- ・イベントは90分程度の予定。写真や動画を使った紹介はこのうち30分ほどで、残りは鳥についてお話をする。

【意見】

- ・写真や動画を使い鳥の紹介をするとのことであったが、視覚障がい者はイベントに参加できるのだろうか。
- イベントに参加いただくことはできるが、写真や動画をもとにした説明になってしまうため、お楽しみいただけないかもしれない。伊丹は飛行機の音が大きい影響で鳥の声など、耳で聞く資料を作ることが難しい。
- ・写真や映像だと、実際の大きさがわかりにくいいため、紹介時に大きさについても説明があればわかりやすいと思う。
- ・伊丹市の地図を使い、簡単な分布図を作ることができれば、より身近に感じていただけると思う。

(9) バスケット好き集まれ！

【概要】

- ・16年間学校でバスケットボール部の顧問をしていた経験を活かし、ストレッチ指導、運動指導、肩こり腰痛の緩和など、体のことでお話するイベントを開催したい。

【意見】

- ・激しい運動や振動が伴うため、バスケットボールの指導は難しいと思う。
- ・肩こりや腰痛については、医療行為にならないように注意する必要がある。スポーツのイベントとしては、とてもいい企画だと思う。

- ・趣旨からは外れるが、バスケット好きがバスケットについて語り合うだけのイベントも楽しいと思う。

(10) 英語で童謡を楽しもう

【概要】

- ・前回の交流フロア運営会議で発案した際にいただいた意見を元に、英語で童謡を楽しむイベントを企画した。
- ・「きらきら星」「指さん家族」「小さな蜘蛛さん」など、英語圏で有名な童謡を手遊びと一緒に紹介し、音と動きで楽しむ。どの童謡を紹介するかは、参加者の年齢層を見て判断する。
- ・英語がわからない参加者のために、歌詞を書いたボードを用意する。
- ・対象は3歳から4歳の小さなお子様。イベント時間は1時間ほどを想定している。

【意見】

- ・イベントの対象が小さな子どもでもあるが、おそらくは一時間も集中が続かない。
→確かに、文字が読めない子どもには歌詞カードを用意しても退屈だと思う。イラストや手に持つ小道具を用いて、英語の歌詞と意味をリンクさせて教えることで、興味を持ってもらいたいと考えている。
- ・歌詞カードを、家に持って帰って見返すことができるようプレゼントにするのはどうか。イベントの場では文字が読めない子どもでも、家に帰ってから保護者に読んでもらうこともできる。
- ・歌詞をカタカナで表記するのはどうか。
→カタカナも3歳や4歳であれば読める子の方が少ないと思う。
- ・そもそも言葉の意味も理解してもらえないかどうか怪しい。歌詞よりも、音や動きをメインにした方がよいのではないか。
- ・ご兄弟やご姉妹での参加も考えられるので、対象年齢を限定しすぎるのはもったいないと思う。

<イベント報告>

(1) 朗読会～夏の終わり 妖しい夜～

参加者は9人。平日の夜に朗読会を開催したのは初めて。普段の3分の1くらいの参加者しかいなかった。朗読をされる方が読みたいと思わないような作品『人間椅子』を敢えて選んだ。

(2) 追手門学院大学就業体験生イベント 親子で作る敬老の日プレゼント

参加者は第1部が34人、第2部が13人。そこそこの参加者が集まり、アンケートでも好評だった。アンケートでは、午前の開催を希望する声が多かったため、子ども向けイベントをこれから企画される方は、午前に開催するのがいいと思う。

(3) おしごと紹介シリーズスペシャル

参加者は合計29人。おしごと紹介シリーズの特別回として、薬剤師、鉄工所、生命保険のお仕事を子どもたちに紹介した。イベント開催日が市内の運動会と被ってしまい、参加者が想定よ

りも集まらなかったため、次回からは日程についてもしっかり考えたい。

(4) おくのほそ道を学ぶ講演会

参加者は19人。10代から80代まで、幅広い世代の方に参加いただいた。自分の課題でもあった、若い世代に参加していただくという目標が叶い良かったと思う。

(5) 漫画を語ろう！

参加者は7人。漫画を語ろう！イベントの顧問をされている倉田先生にお越しいただき、お話しを聞くことができた。次回は10月25日「食べるシーン」をテーマに開催。

4 次回の運営会議 2023年11月1日(水) 18:30～ ことば蔵1階 交流フロア